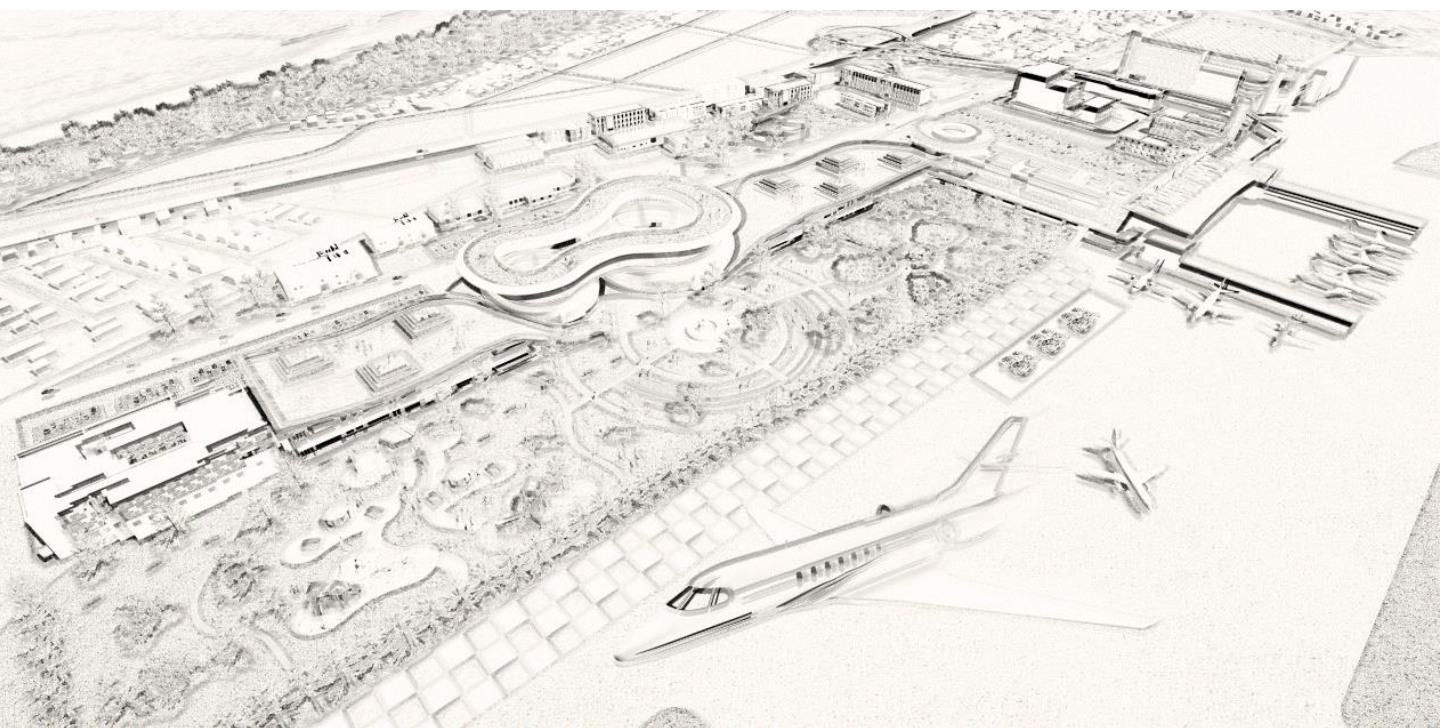


小松市都市デザイン

Komatsu Design for the Future



小 松 市

(令和6年9月30日改訂予定)

I. 序章

1. 目的

小松市都市デザインは、
本市のまちづくりスローガン **小松を明るく、にぎやかに!** の下、
目標とするまちの将来像やまちづくりの考え方を示すものです。

2. 期間

目標年次は、**西暦2040年度(令和22年度)** とします。

3. 人口目標

2040年度の人口目標を、**10万人以上** とします。

重要指標

- | | | |
|------------|---|---|
| ・ 活力創出コア人口 | 5万8千人以上 | (18歳以上70歳未満の人口) |
| ・ 子ども人口 | 1万7千人以上 | (18歳未満の人口) |
| ・ 合計特殊出生率 | 2.0以上 | |
| ・ いきいきシニア率 | 96%以上 (75歳)
90%以上 (80歳)
80%以上 (85歳) | (各年齢における要介護認定
(要支援を除く)を
受けていない人の割合) |

Ⅱ. 本章

1. 都市目標

世界に時めく 日本海側の拠点都市こまつ

日本有数の住みよさ、日本海側屈指の産業集積地、
そして国際空港と新幹線駅が立地する小松市では、日本の真ん中から
地方都市の発展をリードすべく、市制100周年を迎える2040年に向かって、
「世界に時めく日本海側の拠点都市」を都市目標に掲げ、
持続的に成長し、人々が集う明るくにぎやかな未来を創り出します。

2. 6つの都市像

好循環のまちづくりでまちを大きく成長

- ① 都市機能を最大限に活用し拠点性を高め、仕事を創り人流を活性化させる
- ② 子育て環境と教育の質を向上し、親や子、家族みんなの幸福度を上げる
- ③ 安心感や満足感を得られる生活空間が、全ての人の居住や滞在の価値を高める

6つの都市像は互いに連関し、
それぞれが好循環をつくり出す重要な要素となっています。

都市像

1 世界に時めく 日本海側の拠点都市こまつ

世界とつながる空港、日本各地を結ぶ新幹線。

近距離に位置する強力な二大都市機能を活かし、日本海側随一の交流エリアとなります。

多くの人・物・情報が行き交い、地方の成長をけん引するモデル都市に進化します。

- ▶ 小松空港では、地方のハブ空港を目指すと共に、その周辺には、新しいエアターミナルビルを中心に、商業・サービス・行政など新しい産業を構築し、市外や国外の人々も集い滞留できる北陸のシン都心としてのエリア形成を進めます。
- ▶ 新たなランドマークと都市機能が立地する小松駅周辺を、北陸のビジネスの中心街とすべく、グローバルな企業の本社機能やサテライトオフィスの集積を図ります。また、公立小松大学がコアとなる人材育成の集積エリアとしても、さらに発展させていきます。
- ▶ 日本の真ん中に位置するロケーションや、近接する国際空港と新幹線駅、高速道路など、類稀なアクセス力と産業力・住みよさを活かし、日本海側の拠点都市を目指します。

都市像

2 ものづくりが誇りの 産業創生都市こまつ

時代と共に変化・多様化するワークスタイルやライフスタイルに対応し、

女性や若者にも選ばれ人々が集まり働く産業構造。

古から受け継がれるものづくり産業と新産業が調和し、

まちにさらなる活力が生まれ、持続的に発展し続ける産業都市となります。

- ▶ 先端技術の積極的な導入や、女性の活躍の場創出を後押しし、これまでもこれからも本市産業の礎であるものづくり産業の持続的な成長を進めます。
- ▶ スタートアップ企業など新たな産業の育成や時代ニーズに応じた企業の産業転換も支援するなど、女性や若者が働きやすく持続性が高いバランスの取れた産業構造を構築します。
- ▶ バランスの取れた産業構造の中、子育てや介護など個々の生活環境に応じたフレキシブルな働き方で、誰もが働きやすいストレスフリーな産業都市を目指します。
- ▶ 伝統的な技法とデジタルやロボットの力を融合させ第1次産業の魅力を高め、異職種や都市圏からの働き手の増加につなげます。

都市像

3 子どもたちの輝く 未来創造都市こまつ

「子育てするならダントツ小松」。

仕事を得た若い世代が家庭を築き、新しい家族が生まれ幸せを感じます。

高等教育までつながる質の高い教育環境で、子どもたちの多様な可能性が見出され、伸ばしこぼれなく個々の持つ能力が高まり、光り輝く未来が描かれます。

- ▶ 妊娠前から始まる子育て支援。ライフステージに応じた切れ目のない親子へのダントツのサポートで、若者に選ばれるまちを実現します。
- ▶ 農山村や水辺など、都会にはない雄大な自然の中で遊べる・学べる環境が感性を刺激し、子どもたちの健やかな成長を育みます。
- ▶ 幼児教育、義務教育、高等教育の全てを高い質で網羅し、さらに個々が持つ能力を高めるパーソナル教育や、特技を活かし夢を叶えるキャリア教育、スポーツ・文化教育を実践します。
- ▶ 時代・社会の変化に対応し、子どもたちへの質の高い教育を確保するため、学校教育環境において機能の拡充はもとより、一貫教育・学校環境整備の在り方などの検討を加速します。

都市像

4 誰もが暮らし続けられる 生涯安心のこまつ

安心感のある暮らしは、まちの持続的な成長のベースです。

産学官連携やデジタルとの融合により、医療や福祉、防災防犯は全国でもトップクラス。より安全でより安心できる日常生活を、全ての人が実感できるまちです。

- ▶ 命を守る防災減災。河川改修などの治水や治山、デジタル技術の活用、助け合う地域力で、地震や水害など激甚化・頻発化している自然災害や感染症に強いまちを目指します。
- ▶ 南加賀の医療拠点小松市民病院では、急性期医療と最先端の高度医療を提供するとともに、企業や大学と共同で医療研究を進めます。また、地域医療機関と連携し病気などを未然に防ぐ健康づくりの浸透を図ります。
- ▶ 市内全域で鉄道や二次交通など地域交通を再構築し、仕事や生活だけでなく医療や福祉にも、誰もがどこからでも目的の場所にたどり着く交通体系を整備します。
- ▶ 言語・文化、障がいの有無や妊婦、子どもからシニアまで、誰もが安心できるまちづくりを進めます。

都市像

5 自然が映え文化が息づく ふるさとこまつ

子どもたちのため、まだ見ぬ次世代のため、残したい自然がある。そして、伝えたい文化がある。
人々の心を豊かにする日本の原風景や町人文化が未来につながれ、
これからの時代に輝きを増していきます。

- ▶ 農山村地域で愛され育まれた自然や温泉、食を積極的に発信し、自然体験や若者就業の増加を図り、新しい産業や二地域居住の創出につなげます。
- ▶ 木場潟から望む白山は、北陸新幹線の車窓を代表する絶景です。スポーツや健康増進でも親しまれる木場潟を、子どもが集まり全ての世代にも愛される北陸最大の水郷公園に発展させます。
- ▶ 曳山子供歌舞伎や九谷焼など、本市が誇る伝統文化や伝統産業を継承させ、全国・世界に発信します。また、伝統芸能やアート・音楽など市民の文化活動も振興します。
- ▶ クリーンエネルギーや環境負荷低減型の新モビリティの普及、ごみの減量化・リサイクルや環境活動、森林資源の保全と活用により、みんなで美しいゼロカーボンシティを創り地球の未来につなげます。

都市像

6 ワンランク上の生活空間あふれるこまつ

デジタル技術がもたらす便利さ、充実したまちの機能、自然が生み出す悠々とした時間など、
仕事や暮らしのあらゆるシーンで幸福感や快適性を実感できます。
質の高い空間が、住む人も訪れる人もみんなを笑顔にし、まちの賑わいを創ります。

- ▶ 将来にわたってまちの未来を創り続けていく拠点として、市民と共に考え創り上げる、まちの新たなシンボル 未来型図書館 を整備します。
- ▶ プロスポーツや全国大会を積極的に誘致すると共にスポーツ交流を拡大します。スポーツ科学や健康増進とも一体となり、誰もがアクセスできる環境を整えます。
- ▶ 職場や家庭などデジタル社会を推進し、買い物・仕事・暮らしや、その全てにつながる移動面などあらゆる負担が軽減されたスマートシティを目指します。
- ▶ 家族や親子でもくつろげる公園などの社会インフラ、歴史と調和した街並みなどの景観・美観。住む人も訪れる人も心が潤うワンランク上のまちづくりを進めます。

3. まちづくりの方針

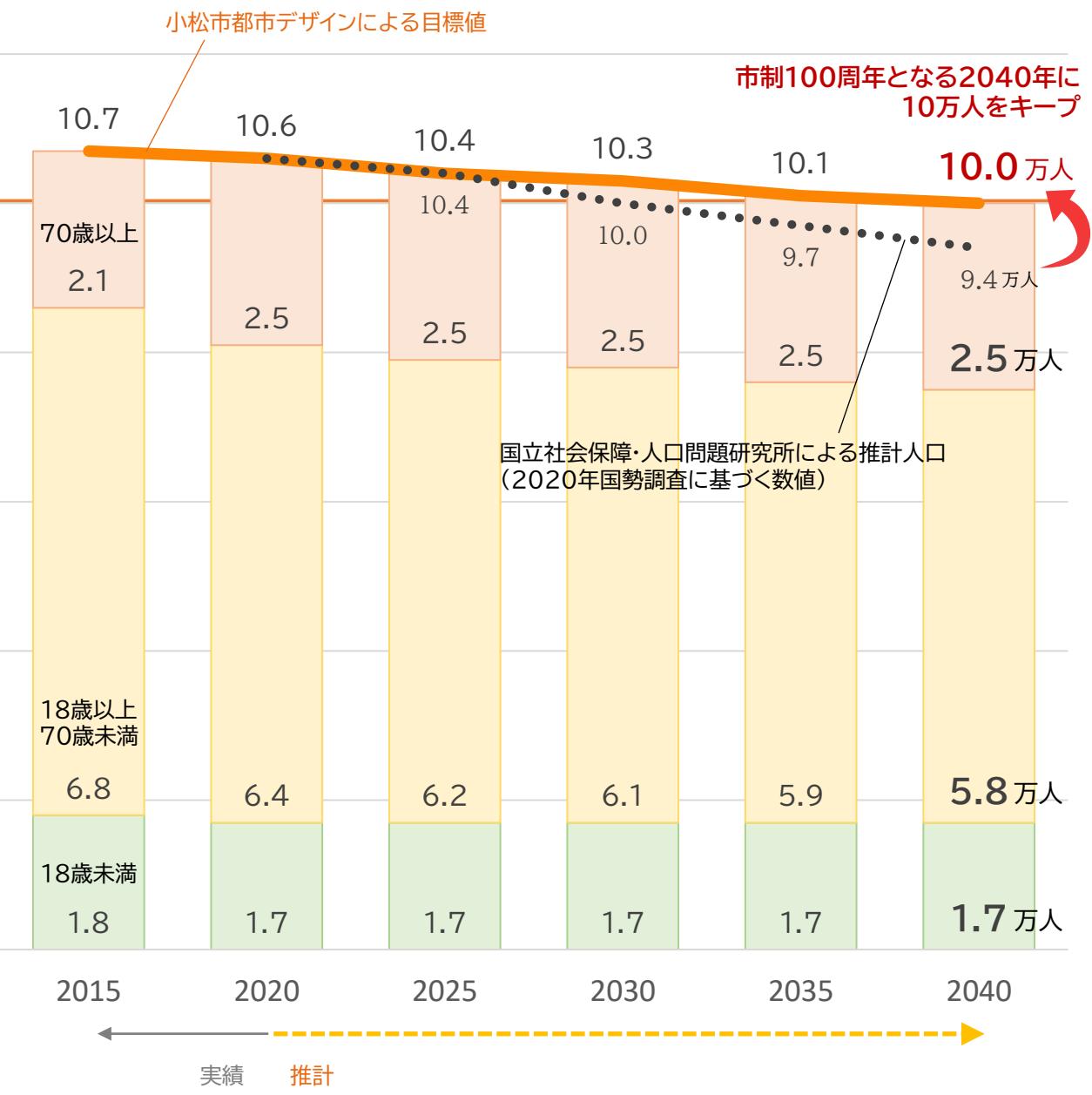
- ① 直面する課題から逃げず、後世に先送りしない
- ② ウラ日本から新しいまちづくりに挑戦する
- ③ ふるさとこまつの持続と発展を期す

わが国では、人や物、情報などの東京一極集中が是正されないまま、誰も経験したことのない速さで進行する超少子高齢化の社会を迎えています。人口構造変化の大きなポイントとなる2040年に向け、これまで先送りされ続けてきた様々な行政課題から逃げず、世代間の公平性と持続性を熟慮した政策が必要です。

かつて裏日本と言われた日本海側は、古き良き日本の原風景が残る美しい自然環境や独自の文化など、先人から受け継がれ、これからの時代に必要となる要素が詰まっています。小松市は、全国各地や世界ともつながる高速交通ネットワークが形成され、日本中がうらやむリソースを有する都市となり、かつ日本の真ん中に位置しています。

よって、激動するこれからの社会の中で「世界に時めく日本海側の拠点都市」を目指し、本市の持つ特長を最大限に活かし、ふるさとを持続するとともに、フレッシュな意味での「ウラ日本」から、今後の地方都市の発展をリードし続ける新しい小松市をデザインします。

総人口と重要指標



※ 小松市都市デザインの人口目標及び重要指標の推計については、
2015年度国勢調査に基づく国立社会保障・人口問題研究所による推計人口を基に算出しています。
※ 今後、2020年度国勢調査に基づく人口推計を算出した際には、改めて公表いたします。